

悪化した虫垂炎を

三力を中心とした治療法で克服



谷川武

愛媛大学大学院医学系研究科
公衆衛生・健康医学分野教授
藤本ヨガ学院 学術顧問

昨年3月、千能院長から電話を頂きました。崔昊(サイコウ)先生が虫垂炎と診断されたのだが、どうしたらよいだろうかと、いう相談でした。これは、手術しかないだろうと思い、すぐ病院を受診した方がよいと伝えました。その後、まさかあれほど悪化した虫垂炎なのにヨガを中心とした治療法で克服されることは夢にも思いませんでした。この貴重な体験は、是非皆様に紹介すべきと考え、経過を崔昊先生と友岡清秀君にまとめるように依頼しました。ここにお二人の了解を得て経過のまとめを編集しました。

復しました。昼夜を問わず親身に診てくれていた鍼灸師の友岡清秀さんの存在も大きかったです。

千能先生の教えにより、以下のこと気に付き、勉強になりました。

(2) 信じること
（「決めることの大切さ」）決める
なら、何を根拠しているのか
決めることによって目標が明
確になつたら、力が涌きます。
迷いや不安がなくなつて、無駄
なことを考えないようになります。
した。エネルギーは自分がした
いことのみに使えるようになりま
した。なにより心がすつきり
していく、すべてを楽しめるよ
うになりました。

院長先生は沖導師の三島道場で沢山難病の方が断食とヨガで病気を治したのをご覧になつたり、藤本ヨガ合宿での数多くの断食の成果から信じました。

(3)現実、ありのままの自分を認めることが重要性

一週間病院に通つて、よくなれるどころか悪くなる一方の原因

自力で治すと決めた後、院長先生のご指示通りに完全断食し、毎日1時間ごとに150ml～200mlバイロゲンを飲むことにしました。アーサナをするときも、院長先生が細かく指導してくださいました。決して無理に頑張らない、自分に必要なアーサナをしました。「自分が健康になるために身体を直すのではなく、人のお役に立つ身体を作るために健康になるのです」と院長先生は教えてくださいました。断食をすることになりました。「アーサナは美味しい」と思いました。体が軽くなることにつれて心も安定してきて、集中力は以前より増しました。

早く治るように祈っています」と応援してくださいました。東京の皆さんも色々気を使ってくださいました。友岡君が針灸の治療をしてくれたり、島村孝子さんが色々調べて虫垂炎を直す方法と食材を持ってきてくださいました。家村圭子さんが日常の仕事も色々分けて助けてくださいました。

院長先生の「自分が健康になるために身体を直すではなく、人の役に立つ身体を作るためには健康になる」との教えを実践し、皆様のためのヨガの先生になるよう今後も日々修業致します。

医師の立場から

今回の崔昊先生の記録は、紛れもなく、崔昊先生が命がけで

ない限りは。しかし、藤本ヨガの力により、このような例が起ることを会員の皆様に是非とも知つていただき、修行の励みにして頂くことを願います。

外科手術がなく、抗生素もない時代に我々の祖先は虫垂炎に罹ると皆死んでしまったのでしょうか？今後さらにヨガの力によつて現代医学では当然と思われていることが実は人間の自然治癒力を眠らせていただけだという事例が出てくることを楽しみに期待します。

注意：今回の事例では、崔昊先生のこれまでの修行の到達度を鑑みてアドバイスをしました。皆さんには、断じてなさらないでください。

(4) 指導通りのままに動くこと

は院長先生の教えで分かりました。それは自分が病院の治療に完全に頼りきているにも関わらず、自力で治すとまわりにアピールしようとする、ええカッコいいのズルイ自分がいたからです。また、自分の考えはすでに「私は病人である」ことになつて、自分で自分のことを何とかしようという意欲がありませんでした。院長先生の教えを頂いて、自分の現状が見えた時、ふつと肩の力が抜けました。体が軽くなると同時に、不安や怖さなどの気持ちもだいぶ減りました

(5)病気や逆境だから、感謝する
大変な時こそ本当の自分が見
えできます。一見大変な時こそ
本当に自分が何をしたいのか、
どうなりたいかを考えるようにな
ります。自分の本当の考えが
見えると、一気に楽になって不
安や迷いがなくなります。大変
に見える時こそ、自分が前に進
むステップです。

院長先生、神山先生は私のこ
とを色々考えてくださつて指導
してくださいました。私のこと
を知った松山の先生方やカレッ
ジの皆さんのが電話で「崔先生が

示した藤本ヨガの威力の実証データです。友岡君は、当初この経過をまとめることに難色を示しました。ヨガの他に断食やパイロゲンや鍼灸などもしているので何が効いたかわからないという理由でした。私はそうは思いません。これらの方全てが藤本ヨガで実施しているものなので、それで構わないのです。彼は藤本ヨガの力を借りて彼自身の強い心で悪化した虫垂炎を克服したのです。もちろん私は、悪化した虫垂炎の患者さんには次も外科治療を勧めます。その患者さんのヨガ修行が進んでい

感を感じましたが、一時的なことだと思って気にしませんでした。翌日になつて痛みが強くなつたので虫垂炎ぢやないかと思ひましたが、まだそれほど問題にしませんでした。

その日の夜、腹痛で目が覚め、痛みと右下腹部の張りを感じるようになりました。その後、3月9日（土）まで指導や仕事をすると氣にしなくなり、夜には痛みとお腹の張りを感じて、特に明け方にそれらの症状で目が覚めるようになりました。

3月13日午前中、三井記念病院に行きました。まず内科に行つて、医師の問診後、血液とエコの検査を受けました。体温も計つてもらつて、36・7℃で特に発熱はありませんでした。血液検査の結果、白血球の数（一般に感染の有無を示

熱はない、そして腹膜炎を起す兆候である筋性防御がないため、医師も飲み薬を処方してくれました。

その3日後3月15日、内科医の指示で、内科から外科に代わり、診療してもらいました。外科で再度の血液検査、白血球は $10,000$ 、CRPは 2.3 でした。CRPが下がったものの白血球は下がっていなかっため、飲み薬の種類を教えてくれました。変えた薬を服用3日間、医者の指示で3月18日、再度の血液検査を受けて、白血球は $13,600$ に上がり、CRPも 5.7 まで上りました。飲み薬はあまり効果がないので、点滴で抗生素質投与することに切り替えました。

3日間点滴を続けて、3月20日、4回目の血液検査の結果は、白血球 $15,100$ 、CR

外科の先生は念のため、手術センターの先生を呼んでき、診査してもらいました。その後、外科と手術センターの先生方（3名）と相談した結論は、即入院、絶食点滴で抗生素質投与、結果次第で手術に進むとのことでした。手術センターの先生によると「すぐには手術ができない、今お腹を開けたら炎症で腸がグチュウグチュウになつているので、大腸も小腸も切らなくてはいけない状況だ」そうでした。

入院するにしても、一旦相談する必要があると病院の医師に告げて、まず当日は入院せず、帰ることにしました。その時、病院のロビーで、「動けるうち東京で様子を見て入院するか、どうすればいいのか」と悩んでいました。ちょうどその時、千

す)は10,000(正常値3600~9700)とやや多い。体内の炎症反応を示すCRP値は4.5(正常値0.0~0.4)でこれも強い炎症を示していました。腹部エコー検査の結果では虫垂が腫れているのが見受けられました。CT検査の結果でも急性虫垂炎と診断されました。先生は、入院して手術することを勧めてくれましたが、私はできれば、内服治療をした。先生は、入院して手術することを勧めてくれましたが、私はできれば、内服治療をした。

P 12.8とさらに数値が上がりました。体温は38.2℃で、熱も出てきました。点滴治療は効果がありませんでした。診断を確定するため、2回目のCTを検査を受けることになりました。その結果は…

①虫垂腫大と周囲脂肪組織吸収上昇は前回と比較し明らかに目立つようになっている。

②右下腹部に腫大リンパ節が目立つ。診断・虫垂炎増悪といふべきでした。

「効果があります。その後、必要であれば手術をすればいい。ただし、そうするか決断するのは自分でです」と教えてくださいました。

また千能先生は以前、三島の沖ヨガ道場で断食とヨガをして、色々な症状の方が好転したのをご覧になつた話をしてくれました。

院長先生とお話をした結果、断食とヨガで自力で治すことを決めました。その後、院長先生の細かいご指導の下に断食とヨガで虫垂炎を治すことをスタートしました。その翌日、痛みは軽くなつて、下腹部の張りも少しずつ減りました。熱が出なくなつて、明け方の腹痛も軽くなり、ぐっすり寝れるようになります。3日目からさらに症状が軽くなつて、4日目はほぼ痛みも違和感もないくらいまで回

八幡浜汽船有限公司

〒790-0001 松山市一番町3-3-6
明治安田生命松山ビル5F
TEL(089)932-5312 FAX(089)932-5412
<http://www.ykisen.com>

